

忘れない

軍令 通った世の中で

あなたの命奪われしことを

猪苗代町 渡辺 二公さん

### 『地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰の時代が来た』

「今日も体温を超える暑さです。命の危険が伴います。」ご注意ください。朝のニュースを報じる「アナウンサーの言葉から一日が始まります。」

もちろんこの「異常気象」は日本だけではありません。全世界、まさに「地球規模」の異常です。

そのような中で7月17日の新聞各社が報じるニュースに、「中国訪問中のケリー米大統領特使(気候変動問題担当)は、中国の気候変動問題担当特使である解振華(かいしんか)氏と北京で会談した」と報じていました。そしてバイデン米政権は、中国と気候変動対策分野における協力を模索している。また中国も安全保障分野を巡る米国との対立が激化する中ではあるが、気候変動分野での協力を米国との緊張緩和につなげたいとして、年内を視野に調整が進められているバイデン大統領と習近平国家主席の首脳会談の地ならしの意味合いもあるとも報じられています。

また11〜12月に開催をされるアラブ首長国連邦における「国連気候変動枠組み条約第28回締約国会議」においても意見交換が行われようとしています。加えて米政府高官のブリンケン國務長官が6月に、またイエレン財務長官が今月6〜

9日に相次いで北京を訪問し、【干ばつ・洪水・猛暑：今、地球で起きていること】についての話し合いが行われ米中間の対話の機運が生まれています。

また危険なほどの高温が続いているがこの状況を訴える次のメッセージもあります。

「今夏は北半球全体を熱波が襲っている。アメリカや中国では50度を超える気温が記録され、地中海沿岸では高温のために山火事が頻発している。世界気象機関などは今月が観測史上最高に暑い1カ月となっただけでなく、少なくとも過去10万年間で最も暑い月との推定を発表した。世界の高温化は否定しようもなく、国連のグテレス事務総長は『地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰の時代が来た』とまで宣言した」

(毎日新聞・7月30日「時代の風」)

### 安倍内閣の慣行を無視する

### 人事の強行と憲法解釈の変更

また集団的自衛権の行使は憲法違反であり、専守防衛をやっていくということが戦後の内閣がずっと維持し、これを国民も支持してきました。

しかし安倍内閣は「解釈変更はできません」と変更を否定する「坂田内閣法制長官」を、「9条が自衛権を否定していない以上、防衛問題は時代に

合わせて変えるべきである」と主張する小松駐仏大使に変える人事を閣議決定で強行してしまいました。

それだけではありません。2014年2月12日の衆議院予算委員会で、安倍首相は「最高責任者は私だ。政府の答弁は私が責任を持つ、その上で選挙の審判を受ける。審判を受けるのは法制局長官ではなくこの私だ」と強弁しています。

閣議決定で憲法解釈ができるということは、「時の権力をしばるといふ立憲主義の破壊そのものである」ことを私たちは許してしまいました。もちろん今も多くの国民はその悔いを忘れてはいないと思います。

しかしロシアのウクライナ侵略、北朝鮮によるミサイル発射の強行、そして台湾をめぐる中国の不安定な動きのなかで、この国民の共通の認識が崩れていくことを意識しないわけにはいきません。

それは「やられる恐れがあったら、やられる前にやらなければ国民を守れない」とする認識の強まりです。さらにその意識を先取りしたかのように麻生自民党副総裁の台湾有事を念頭に、対中戦争に備えるべきとも受け取れる「戦う覚悟」が求められるとの発言が飛び出しています。

誰しもが否定することのできないこの「世界的な異常気象」の今こそ、人類共通の「生き延びる課題」について、工夫と知恵を絞り外交による話し合いが行われることこそ、世界平和への『道しるべ』と考えますが、いかががでしょうか。

(文責・降矢)

## 【1つひかり】

### 気づいたこと・感じたこと



#### これも異常気象

#### 天明の飢饉・東北八戸の歴史の記録

天明三年(1783)の大凶作の様子が、「新井田村対泉院寺境内の供養塔飢饉の供養塔」の裏に次のように刻まれています。

「四月十一日の朝に雷が強く鳴り、やませ(冷たい風)が吹き大雨が降りだした。それ以来、八月の末まで雨が降り続き九月一日によく晴れた。

夏の間ずっと綿入れを重ねて着なければならぬほど寒かった。田や畑の作物は実らず、青立ちのままだった。人びとは階上岳へ登り、わらびの根を掘り、海草や山草はもちろん、わらも粉にして食べた。翌年になると領内すべてで収穫がなくなり、病気が流行し、多くの人が餓死し死体が山のようにあつた。町や村では毎晩のように火事があり、押し込み強盗などが多くなった。しかし新井田村では出火はなかった。領内の人口六万五千人あまりのうち三万人あまりが死んだ。

新井田・十日市・田向・塩入・岩淵の人口男女あわせて千四百十八人、そのうち六百九十六人が死んだ。家は二百七十二軒のうち、百三十六軒がつぶれた。これまではなかったことです」

#### 東京を焼き尽くした指揮官

#### カーチス・ルメイー・勲一等を受ける

ニュース7月号では、「民衆の命と財産を奪う」爆撃攻撃として「東京大空襲」を取り上げました。

そして焼夷爆弾投下の指揮責任者であった「カーチス・ルメイー」の名を上げました。

そのカーチス・ルメイーは、1964年12月7日に日本に返還されたばかりの入間基地(旧ジョンソン基地)で、勲一等旭日大綬章を浦茂航空幕僚長から授与されました。その授与の理由は日本の航空自衛隊育成に協力があつたためであり、12月4日の第一次佐藤内閣の閣議で決定されました。

ルメイーは、東京大空襲や原爆投下を行った部隊の指揮官だつたことから、授与に対して大きな批判が生まれ、当時の日本社会党・原水爆禁止団体・被爆者などから国民感情として納得できないという声が上がりました。勲一等の授与は天皇が直接手渡す「親授」が通例であります。昭和天皇はこれを行わなかつたという記録が残っています。ベトナム戦争しかり、そしてウクライナ侵略しかり、戦争とは「民衆の命と財産」を奪うものであり、「起」してはならない。してはならない」ことの事実を改めて確認しあいたいと思います。



#### 「戦友であつた妻」を見る

#### お二人の報告

運動を支えてこられた戦友でもある奥さまの介護の報告がありました。ご本人の了解を頂き掲載をいたします。(編集事務局)

#### その1

年を重ね同じような家庭環境になり、老々介護の現状は当事者になってみてわかることが大半でした。悩みや苦しみはつきものだと思つていましたが、現実には想像しがたいものであります。私の場合は、妻が発病して4か月で言葉がわからなくなり、体力の減退は想像以上の速さで進み約5か月で、ほぼ寝たきりの状態になりました。初めての経験であり、対応もわからず手探りの状態で毎日経過してまいります。これからは医療の分野で対応していただくしかないのであると思つております。

「指摘のように社民党の再建への思いは強く、しかし必要な運動を取り組めないでいます。大変悔しい思いですが、病人を抱えて何もできないことが一層気持ち焦らせています。地元の党員会議にも参加できず、メールやラインでのやり取りでは意思疎通が十分ではありません。少しでも役立つことがあればと気持ちだけ焦っています。なんとか乗り越えたい気持ちでいっぱいです。

#### その2

6月・7月号と合わせて、久しぶりに開けてみました。パソコンも久しぶりに開くとともに、時間がかかり腹立たしくなります。この約1年間、連れ合いの病院の「はしご」に付き合ってきました。目の前の緊急事態を乗り越えてゆかねばなりません。これまでの連れ合いへの感謝の気持ちを込めて、炊事、洗濯、買い物とほぼ私の方で仕切っています。日曜日には、後輩の市議(72歳の)の死去に伴い、3千円の会費で「偲ぶ会」を開くことにしています。



### 這いだし、脱皮した「あぶらセミ」の6時間のお付き合いが残したもの

毎年、私の庭の咲き終えた「紫蘭」の葉に、一匹のセミが抜け殻を残し飛びたっているが、その旅立を見たことがない。しかし今年はその葉っぱにセミの姿を見つける。それは朝の9時半までのことであつた。そこで今回はその飛び立ちを見ることができると期待をした。

(雄であることを仮定し「彼」と呼ぶことにする)

そして彼は葉から離れた。風が強いこともあつてか地面に落ちたというのが正しいようである。その彼は正午過ぎまでの2時間くらい、約2メートル平方くらいの地面を這い続けた。そこで気になるのが「彼」の天敵である鳥や猫にやられないかという心配である。もしその天敵が近づいたら追い払おうという気持ちには生まれずと見続けた。

やがて這い続けていた「彼」は庭石の下に入っていた。昼時、食事を終えた私には「彼」の姿を見ることができなかつた。やむなく「一声」を残して「明朝」飛び立つことを期待し、私のその日の観察は終わった。しかし、残念ながらその「一声」を聞くことができなかった。

16年間土の下での生活、そして地上へ。脱皮をしてやがて自由を求め大空へ。「彼」は果たして無事に、僅かな一週間の自由を謳歌し、子孫を残せたのだろうか。そのことを確かめることはできない。

私にとっては、「彼」との6時間の付き合いが、な

ぜか、人間である私にとって貴重な時間を残してくれたような気がした。



紫蘭の葉にしっかりとまるアブラセミ

### 時の流れ・長方形の田の畔にどぶろく

現役時代の出勤前のひと時はまさに戦場であつた。しかし今の食後は至福の時である。テレビのスイッチを入れる。朝ドラの時間、そして「ころ旅」と続く。70代の火野正平さんを含む「5人の侍」の自転車をこぐ姿、どこにでもある街並み、そして田畑、山並みの風景を見るのが楽しみである。

そして田に目をやる。苗植えが完了したのを見るとホツとする。そして今年も豊作であることを願う。その想いはあの戦後の空腹と結びつく。

大根、サツマイモ、そしてわらび、ふきなどを煮込んだ「混ぜ飯」。そして最初にわずかな米粒を選び口にした記憶。そして60余年前を思い出す。

共働きであった私の子どもは小学校から自宅に戻る。いわゆる「鍵っ子」であつた。ランドセルには玄関の鍵がぶら下がっているが子どもは家に入らず向かいの家の玄関を開ける。そこには老婆がいて快く子どもを迎え入れて頂いた。その老婆の話と、目の前に広がる田の光景が重なる。

当時、田のほとんどが長方形であつた。苗植え時

村は総動員体制となる。村人は横一線に並び左手に苗束を持ち、そして右手で器用に苗を植えていく。その前方の畦道には一升瓶が数本並べられている。その中身は「どぶろく」である。

老婆は言う。「男めらは、そのどぶろくを飲みたくて手を早める。女たちは追い立てられる」。そして次の田んぼに移るがそこでも前方には一升瓶が数本ある。当時の光景をこのように語ってくれた。

同時に、あの太平洋戦争時の疎開の思い出が浮かぶ。私の兄弟は兄、妹の3人であつた。兄は長男、妹は小さい。そこで次男の私だけが母の実家に疎開をした。小学3年の時である。

田植えの前に代掻き(しろかき)というのがある。当時はその代掻きに馬を使った。私の仕事は2メートルくらいの竹を馬の鼻先付けて馬を引く。馬の蹄が泥をはね上げる。小さな私はその泥を頭からかぶることになる。そして何度も同じところを歩くと「何回、同じところを歩くんだ」との罵声が飛ぶ。しかし、仕事が終わった後、馬を引いて近くの川に行く。その時は裸馬の背に実家の兄さんが私を乗せてくれた。その時の嬉しさは今でも思い出す。その兄さんも、そして馬も戦地に行き帰ってこなかつた。

そして今私が見る田は「長方形から正方形で広い」。そして耕運機が田の中を往復する。正方形の方が回転しやすい。さらにその作業も、会社名が入った「つなぎの作業服」を着た人々へと代わっている。時代の流れのはやいことを意識する昨今である。

(降矢記)

## 報告・提言のひろば



■「お墓」の問題を提起されたのはとくに貴重でした。明らかに「弔いの文化」は変わりつつあり、変わらざるを得ませんね。自身の問題としても避けて通れません。なお、私は3月末にコロナに罹ったのですが、その後、やはりどこか疲れやすく感じていました。そうしたら、先週末に带状疱疹を発症、抗ウイルス薬を一週間飲んで、何とか軽症で済みそうですが、明らかに抵抗力が落ちていたのだと思います。高齢者（とくにコロナ罹患後の）の带状疱疹が増えているそうです。

■私からメールでご報告した活動などを掲載していただき有難うございます。このように、各地域からのご意見や活動の情報などが掲載されているのはとても良いと思います。今後ともよろしくお願ひします！

■「継続こそ力なり」とは云いますが簡単なことではありません。また私の後輩のご記事としてご活用頂き心から感謝申し上げます。私も会社を辞め6カ月間「新宿職業安定所」に通ったこと、それだけに後輩の気持ちに分かるのです。でも彼は断念しないでしょ！何時かの舞台への復帰を心の秘めて頑張っております。8月7日に雑誌、『社会主義』の編集部の方々と勉強会を持ちます。ドイツの政治・社会情勢に関する資料を皆様に提示して、共に討議したく思っております。

■大雨での被害、コロナでの被害、天災で片づけては政治がないことと同じと常々感じています。微力ですができることを、体を大事にしながらやっていきたいと思います。

■猛暑の連続で体調管理が大変です。不要不急の外出は控えるようにとの呼びかけがありますが、不要の定義はそれぞれ違いがあり悩ましい限りです。返信が遅れましたのは、25日から26日まで「出羽三山」へ詣でしてきました。小生は10数年の恒例行事です。特段信仰心が強いことはありませんが、「湯殿山」、「羽黒山」でご祈禱を頂き、そして宿坊に宿泊。早朝のお勤めは不思議と落ち着く気持ちになります。「ご存じのように羽黒山は「世界平和」を念ずる「聖地」であり、記念像もあります。小生も「世界平和」を祈念してまいりました。

■連日、不安定な天気と猛暑が続いています。またこの辺りはこの1ヶ月ほど殆ど雨が降らず猛暑日の連続です。数日前に都心に出る用事があり、地下鉄を利用しましたが、日中・通勤時間帯ともにマスクを着用していない人の割合が優に8割以上でした。1ヶ月ほど前は半分くらいかなという程度でした。日本人はいつマスクを外せるのか？という議論もありましたが、この猛暑も影響して一気にマスクなしの人が増えました。コロナが5類に移行して、感染者数も重篤者数も見えにくくなってきましたが、社会を回すという要請からこの方向は変わらないでしょう。重篤者が多いというニュースもあまり目にしないので、素人目にもウ

イルスの毒性は弱まっているかもしれないのが救いです。それでも高齢者にとって感染がリスクであることは間違いないので、自衛手段としてマスク着用、可能なら人混みは避けるという行動を維持しています。年齢のせい、今年の暑さは一段とひどいように感じます。全く雨が降らないので、家庭菜園（区民農園）の水やりも手が抜けません。不覚にも夏風邪？で数日間体調を乱してしまいました。

■老々世帯、場合によっては「独居世帯」。これからは多くなる高齢者の実態であろう。かくいう私もその対象の一人になった。そして「5分間の電話が欲しい」と思うことが多くなった。①今日はどうしていたか。②ご飯は食べているか、おいしいか。③通じがあるか。④夜、眠れるか。⑤痛いところはなにか。この5分間の電話に安心を頂く。これも年寄りのかつてな言い分なのだろうか。でも「今日も元気で物忘れ」そんなことを望み、口にする身になりたいと思うのも本音である。

### お詫びと訂正

ニュース8月号1ページ、沖縄慰霊の日の冒頭8月23日とした記事が一部の皆さんに届いてしまいました。正しくは6月23日です。訂正をし、お詫びをいたします。

### カンパありがとうございました

5000円のカンパを頂きました。お礼申し上げます。  
(事務局)

